

2019年開運 新年 日本橋七福神巡り

神山清英（東京都新宿区）

昨年の深川七福神巡りに続き、本年は日本橋七福神巡りです。

七福神めぐりは、江戸時代からの新年開運行事で、縁起行事です。日本橋三越ライオン前をスタートして、日本橋を歩き、日本橋に戻りました。打ち上げは有志による日本橋本町の蕎麦屋さん、新年会を寿ぎました。



日時：2019年1月7日（月曜日）

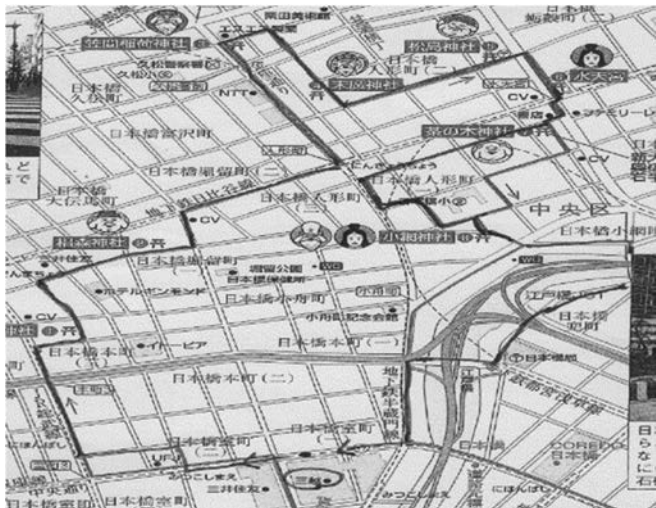
集合：日本橋三越 正面ライオン像前
13時00分～16時30分日本橋

参加費：1,000円（資料代他）

参加者：(28名) 神山清英、村上有三、大湊雅子、河田孝子、飯田ちはひ、飯塚完子、西村久美子、小沢信也、葭江芳夫、葭江澄子、青島岑郎、菊入美江子、伊夫伎欽子、安村恵子、島田貢代、西村美津代、國分朋子、國分光洋、松本恵美子、笠井秀子、佐藤裕子、田辺年隆、笹野美代子、山本浩二、村上洋平、中条裕子、杉村和子

リーダー：村上有三

順路：三越前→コレド1→福德神社→宝田恵比寿神社（恵比寿）→ 相森神社（恵比寿）→ 人形町末廣跡地→笠間稲荷神社（寿老人）→ 末廣神社（毘沙門天）→ 松島神社（大黒天）→ 水天宮（弁財天）→ 人形町界限散策・休憩→ 茶ノ木神社（布袋尊）→ 谷崎潤一郎生誕の地→ 鯨と海と人形町の碑→ 小網神社（福祿寿・弁財天）→ 東京証券取引所→兜神社→日本橋→解散→新年会（有志）



福德神社



新築のような感じのきれいな神社でした。再開発で変貌を遂げた街「日本橋」の中で、ビル群と一線を画したランドマークして誕生したのが福德神社です。

貞観年間（859～876年）にはこの地に鎮座していたという稲荷神社が、ルーツだそうです。

「東京福巡り」の一社で、宝くじの当選祈願で多くの人を訪れるのだそうです。江戸の宝くじ「富くじ」の発行を許された、数少ない江戸幕府公認神社であったことが理由だそうです。



寶田恵比寿神社（恵比寿） 日本の神様です



小伝馬町駅に近い街角にありました。真向いの広場にテントがあり、正月の縁起物が並べてありました。べったら漬けもありました。

徳川家康江戸入府以前は宝田村の鎮守社だったといわれています。江戸の町の拡張により当地へ遷座したところ、当地は金銀為替、駅伝、水陸運輸と重要な役割を担うところとなり大変賑わったそうです。

恵比寿さまは、イザナミ・イザナギの間に生まれた子供を祀ったものです。「大漁追福」の漁業の神として、福の神として「商売繁盛」や「五穀豊穡」をもたらす神となっています。

相森（すぎのもり）神社（恵比寿） 日本の神様

ひそやかに、しかし正月らしい旗のぼりを掲げてありました。平将門の乱を鎮定するために、藤原秀郷が

戦勝祈願をした所といわれています。太田道灌が雨乞い祈願のため、山城国伏見稲荷の伍社の神を室町中期に勧請して厚く信仰したそうです。



神田・柳森神社、新橋・烏森神社とともに「江戸三森」として信仰されています。「宝くじ」にちなんだ富塚の碑がありました。

人形町末廣 跡地 日本橋人形町三丁目



1970年（昭和45年）に閉場して、跡地のビルの正面に石碑が設置してありました。昔の賑わいを想像しました。

笠間稲荷神社（寿老人） 道教の神南極星の化身

赤い旗のぼりが印象的で、また参拝の列が道に長く伸びていました。社殿右側の常盤木で、生命の息吹を感じました。



茨城県笠間稲荷神社の分社です。寿老人は道教の神で、南極星の化身の南極老人で、日本では七福神の一人になっています。白鬚明神ともいわれます。

末廣神社（毘沙門天） ヒンドゥー教クベーラ神



建物の隙間に鎮座していました。鳥居の右側では、天狗のお面をつけ獅子舞の頭を持って、参拝者へ新年の祝いをしていました。獅子舞の頭で、

「パクッ」としてもらう縁起体験者が続々でした。飛騨高山の獅子舞だそうで、正月に参加するそうです。

江戸初期から、地主神、産土神として信仰されていましたが、明暦の大火後には難波町・住吉町・高砂町・新泉町の氏神として信仰されたそうです。

ヒンドゥー教のクベーラ神は戦いの神で、日本では毘沙門天（ヴァイシュラヴァナ）と呼ばれています。

松島神社（大黒天） ヒンドゥー教マハーカーラ神



正面には赤い鳥居、ご神体はビルの中に鎮座、都会の神社です。

松島神社の創建年代は不詳です。鎌倉時代の元享

（1321年）以前に、柴田家の祖先が、邸内に諸神を勧請したと推測されています。天正13年（1585年）に

邸宅を公開した際、島内が松樹鬱蒼としていたことから松島稲荷大明神と称されたそうです。ヒンドゥー教シヴァ神の化身がマハーカーラ神で、大国主命と習合しました。食物・財福を司る神となっています。

水天宮（弁財天） ヒンドゥー教サラスヴァティー神



新装なってきれいで立派な社殿でした。著名なため境内の賑わいはたいそうなものでした。

久留米水天宮を勧請し、明治5年（1872年）、日本橋蠣殻町に移り、安産、水難除けの神として信仰を集めています。

弁財天は、七福神の中の紅一点です。仏教では、音楽・弁才・財福・知恵の徳のある天女です。

水天宮・弁財天

正殿向かって左側に弁財天が祭られていました。こちらも大賑わいで、願いことを胸にした参列者が長い列を作って順番待ちをしていました。



人形町界限 散策・休憩

正月の雰囲気に包まれている下町、それが人形町でした。

水天宮さんにお参りした後、三々五々小グループにわかれ散策をしました。甘酒横丁、人形焼きなどなど著名な場所のもとより、いかにも下町それも正月雰囲気の場所をあちこち歩き、街並みの様子を見たり、記念のお土産を求めました。

もちろん、お茶をして楽しい会話を交わしました。ここまで1万歩ほどの歩きです、少々足が棒になったのを癒しました。



茶ノ木神社（布袋尊） 唐末の仏教の禅僧



地味にひっそりでした。木の鳥居の柱に松飾がつけてあるのが、印象的です。

神社に植え込まれた茶ノ木が、名称の由来といわれています。神社が祀られて

いた屋敷内や、町方（まちかた）にも長年火災が起らなかったため、火伏せの神ともいわれています。

唐の末期の明州に実在した仏教の禅僧の太っておおらかな風貌が好まれ、手にした袋から財を出し与えてくれます。弥勒菩薩の化身ともいわれています。

谷崎潤一郎 生誕地の石碑

「春琴抄」「細雪」などの小説で知られる谷崎潤一郎の生誕の地が人形町にありました。老舗洋食屋「小春軒」の横にあるビルの壁に、「谷崎潤一郎生誕の地」と書かれた石碑が設置されていました。



新年会

七福神巡りでご利益を一杯いただいて、その感激に浸りながら有志で新年会を寿ぎました。



リーダーから

村上有三（東京都文京区）

今年の七福神めぐりは、正月松の内最終日の7日でした。希望者が多く予定人数15名を増やし、最終的には27名の参加となりました。（それでも、お断りした方もあり、すみません）七福神めぐりは、WSCの新年の恒例行事となりました。

この七福神巡りは、比較的新しいコースです。日本橋、小伝馬町、金座、人形町、兜町など江戸の名残が町名になっている場所を巡り、江戸町人の中心地を歩きました。下見の4日と比べると、松の内最終日は混み具合はさほどでは無く、おだやかに参拝できました。

人形町の自由時間では、重盛の人形焼を買ったり、甘酒横丁で甘酒を飲んだりして、初春の街歩きを楽しみました。最後は、七福神ではないですが、証券取引所に隣接する兜神社で今年の金運を祈りました。

七福神巡り終了後、有志は宝田神社近くのそば屋で、酒飲み組とそば派にわかれ新年を祝いました。そば屋でしたが、つまみが豊富で舞茸の天ぷらやジャーマンポテトなどをおいしく頂きました。酒飲み組も、さぞおいしい酒がすすんだことでしょう。来年は、隅田川、亀戸などの声があがっています。楽しみにしています。

七福神巡りの感想

國分光洋（東京都杉並区）

稲荷大神を主催とし、540年前に鎮座された歴史の古いお社を村上さんの案内で、寝正月の体に負担のかからないペースで七福神巡りをしました。

下町に点在するお社は古い日本橋の町並みに鎮座し、どの神社も江戸庶民が長い間、大切に保存してきた歴史を感じます。日本橋七福神巡りは多くの人で賑わっていました。とくに松島神社はビルの奥まった所にひっそりと鎮座し、お祭りしてあってビックリしました。お陰さまでこの1年無事に過ごす事ができそうです。ありがとうございました。

鯨と海と人形町の碑 日本橋人形町 1-6

人形芝居の人形を作る人、修理する人、商う人、操る人がいるのが人形町で、町名の由来になっています。ここに、鯨のオブジェがあるのは、操り人形のバネに鯨のヒゲが使われているからだそうです。



小網神社（福祿寿・弁財天） 道教の道士天南星



とても小さい境内ですが、強運厄除のご利益があるため、人気があり、参列者の列は半端ではありませんでした。長寿と福祿の神です。

東京証券取引所



石造りのどっしりとした建物でした。米国ニューヨーク証券取引所、英国ロンドン証券取引所とともに「世界三大市場」の一つです。

兜神社

どっしりした証券取引所の傍らにあり、証券界の守り神として崇められています。



東京証券取引所のすぐそば、首都高速道路が真後ろを走る都会の一隅に鎮座しています。由来によると、この近辺にあった兜塚が兜神社（源義家が祀られている）となり、更に鎧稲荷（平将門が祀られている）が合祀されて今の兜神社となったそうです。

日本橋

さすがに正月、人も車も少ない。日本橋の上をまたぐ首都高は、都会の象徴です。

